

資源回復計画に関する研究(トラフグ)

(予算区分 交付金 研究期間 平成17年度～)

担当：浜名湖分場 山内 悟

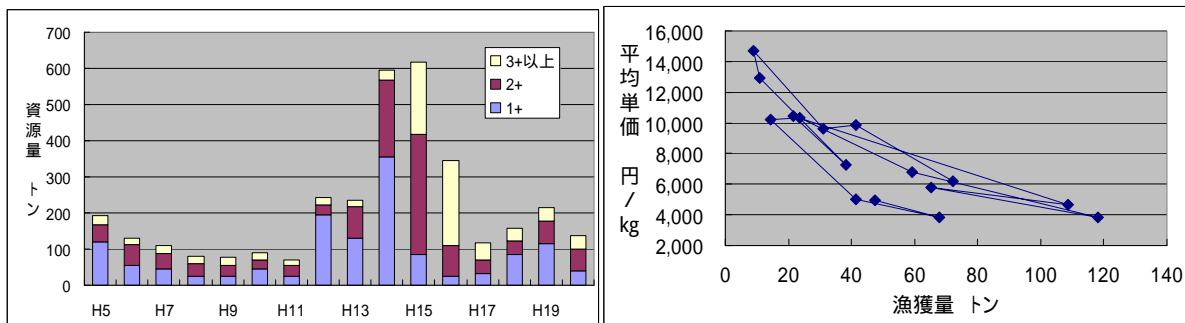
【研究の背景とねらい】

これまでの研究で、静岡県、愛知県及び三重県トラフグ資源は、3県共通の資源であることが判明しました。そこで、正確な資源の状態を把握するため、3県共同で漁獲物組成、漁獲量などを調べ、その結果を解析して、資源の有効利用と増大方法を検討します。

また、3県沿岸ではトラフグ種苗放流が精力的に行われていますが、資源に対してどの程度貢献しているのかがよく分かっていません。そのため、平成20年度からは、放流した種苗も含めた資源解析を行い、適正な放流量や方法などを検討することになりました。

【これまでに得られた成果】

- ・資源解析の結果から、この海域のトラフグ資源は、不定期に発生する卓越年級群の影響で、資源量の年変動が大きいことが判明しました。また、資源に対して強い漁獲圧がかかる傾向があり、小型魚の保護が有効と考えられました。
- ・単価と漁獲量の相関について調べたところ、単価と漁獲量は逆相関の関係があり、近年は以前に比べて安価で推移している傾向が見られました。また、月別単価の推移を調べたところ、魚価は解禁当初の10月から年末に向けて上昇する傾向が一般的でしたが、平成20年では12月に単価が下がりました。トラフグの単価は、景気の影響を強く受けることが考えられました。



【期待される成果】

- ・資源の状態が正確に把握され、資源状態に合わせた適切な資源管理手法が開発されます。
- ・トラフグ種苗放流が天然資源に与える影響が把握され、適正な放流量や場所などが判明します。これに基づき、静岡県、愛知県、三重県の効率的な共同放流体制の構築が期待されます。

【今後の計画】

- ・3県の協力体制の構築及び維持に努め、共同でトラフグの資源調査や種苗放流を実施し、資源の有効利用や資源増大方法について検討します。

(作成 平成22年4月)